

第140期 報 告 書

自 平成17年 3 月 1 日
至 平成18年 2 月28日



松 竹 株 式 会 社

株主の皆様へ

松竹株式会社

代表取締役社長 迫本 淳一



株主の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社の第140期決算について下記のとおりご報告申し上げます。

当社は昨年創業110周年を迎え、業容拡大、経営管理強化等により、一層の企業価値を高める努力をし、お蔭様で昨年に引き続き配当を行うことができました。今後とも、株主の皆様のご期待に添えるよう更に精進してまいりますので、ご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

営業の概況

当期のわが国経済は、原油高の懸念材料があったものの、全体としては企業収益が好調に推移し、設備投資の増加や雇用情勢の改善も見られ、個人消費も着実に回復基調となりました。政府および日銀は、景気基調判断を昨夏の「踊り場脱却」、その後の「緩やかに回復」から「回復している」と上方修正しました。

映画界では、スクリーン数の増加傾向がある中で、前期に比べメガ・ヒット作が少なく、入場者数・興行収入ともに減少しました。その一方で、洋画・邦画のシェアは、12年ぶりに邦画が40%を超え健闘しました。演劇界では、団体客の減少による一般演劇の不振が続く、興行の格差が一段と顕著になる中で、東西歌舞伎俳優の襲名興行が各メディアにとりあげられ、大きな話題となりました。

このような状況下で、当社は、中期経営計画の諸施策を推し進め、業容拡充を目的とした株主資本を高める新株予約権の発行、グループ会社の整理、リスク管理体制の構築等に取り組み、経営の強化につとめました。また、グループ会社の大都市近郊でのシネコン展開や直営既存館の増設・改修による映画興行網の充実を図るとともに、ブロードバンドを活用した映像配信やシネマ歌舞伎の新たな準備も進めました。更に当期は、創業110周年記念事業として新人女優オーディション「松竹STAR GATE」や各種イベントを展開しました。

以上により、当期の売上高は65,789百万円（前期比104.1%）、営業利益は2,129百万円（前期比59.0%）、経常利益は1,360百万円（前期比49.6%）となり、特別利益1,445百万円、特別損失1,595百万円を計上しました結果、当期純利益は750百万円（前期比64.3%）となりました。

以下各部門の概況をご報告申し上げます。

映像部門 配給は、邦画19本、洋画9本を配給しました。「亡国のイージス」「妖怪大戦争」がヒットし、日本初個人向け映画ファン作品「忍-SHINOBI」や「ミリオ

「シゲル・ベイビー」も好調に推移し、「劇場版 鋼の錬金術師」「アビエイター」「SAYURI」も健闘しました。

興行では、上半期は大作に恵まれませんでしたが、下半期は「ハリー・ポッターと炎のゴブレット」「チャーリーとチョコレート工場」「私の頭の中の消しゴム」「フライト・プラン」がヒットしました。また、昨年11月リニューアルオープンした神戸国際松竹をはじめ映画館の改修工事を順次進めるとともに、直営映画館にインターネット・携帯電話の先行予約システムをスタートさせ、設備・サービス両面の充実につとめました。

テレビは、17作品57本を制作し、中でも終戦60年記念ドラマ「二十四の瞳」、正月10時間時代劇「天下騒乱」が好評を博しました。更に、当期より取り組んだ特撮シリーズ「魔弾戦記リュウケンドー」は、新たな分野への着手となりました。

ビデオは、「亡国のイージス」や「忍-SHINOBI」の話題作ソフトが好評でした。また、新作「マイ・ボディガード」「アレキサンダー」「アビエイター」の「ハリウッドキャンペーン」や「今だから寅さんキャンペーン」「邦画まる得キャンペーン」といった旧作の販売にもつとめました。

テレビ放映権を販売した「男はつらいよ」の全作放映が、BS放送ではじまり、評判を呼びました。また、専任スタッフによるブロードバンド事業の準備も進めました。

映像部門の売上高は、32,038百万円（前期比105.5%）となりました。

演劇部門 歌舞伎座は、3ヶ月間に亘る十八代目中村勘三郎襲名披露興行と四代目坂田藤十郎襲名披露興行が大絶賛を受け、大きく収益に貢献し、「NINAGAWA十二夜」「納涼歌舞伎」「十二月大歌舞伎」も魅力ある演目と配役で話題を呼びました。新橋演舞場は、尾上菊五郎による新演出の「児雷也豪傑譚話」や市川海老蔵主演の「信長」が好評を得、中村勘三郎・藤山直美・柄本明の「ヨイショ!の神様」が観客を魅了し、好成績を収めました。また、浅草公会堂の新春浅草歌舞伎は若手俳優の活躍により、近年にも増して好成績を収め、シアターコクーン「桜姫」は、古典歌舞伎を新演出で上演し、ともに若い観客層を動員しました。関西では、大阪松竹座の十八代目中村勘三郎襲名披露興行と片岡仁左衛門・坂東玉三郎「寿初春大歌舞伎」が、話題を呼び高収益をあげ、藤山直美・沢田研二の「夫婦善哉」が好評を得ました。南座は、「坂東玉三郎特別舞踊公演」「三婆」「吉例顔見世興行（坂田藤十郎襲名披露）」が好評を博しました。恒例のこびら歌舞伎や歌舞伎公演の巡業および他劇場での公演も収益に寄与しました。また、韓国とアメリカでの松竹大歌舞伎近松座公演が現地で高い評価を得て、国際文化交流に貢献しました。

演劇部門の売上高は、23,624百万円（前期比105.9%）となりました。

事業部門 不動産賃貸は、依然として厳しい状況が続きましたが、各ビルとも経費節減・効率の運営につとめ、ADK松竹スクエア、昨年4月オープンの京都松竹座ビル、東劇ビルおよび長崎松竹会館が好稼動しました。

出版・商品販売では、「チャーリーとチョコレート工場」がプログラムおよびキャラクター商品販売において好調に推移し、モバイルビジネスの占いサイトや飲食店「カフェ・セレ」の土日パーティが、人気を呼びました。

事業部門の売上高は、10,126百万円（前期比95.9%）となりました。

会社が対処すべき課題

今後のわが国経済は、原油価格の動向や海外経済の減速感、量的緩和政策の変更等、不透明要素はありますが、民間需要に支えられて成長を続けるものと予想されます。その中で、多様化する顧客の価値観や企業統治のあり方、企業の社会的責任に対する対応等、企業に求められるハードルはより高くなっています。

当社は、これまで以上に営業努力を重ね、業容拡大、収益力の強化を図るとともに人材の育成やコンプライアンス・危機管理体制の整備等も推進していきます。更に、市場や経営環境の変化にも柔軟で速やかに対応できる会社として、企業価値を総合的に高め、株主の皆様のご期待に応えるよう邁進していく所存です。

映像部門では、「子ぎつねヘレン」「小さき勇者たち～ガメラ～」 「ウルトラマンメビウス&ウルトラ兄弟」「出口のない海」、正月の期待作「武士の一分」を配給し、興行では、話題作「ナルニア国物語ーライオンと魔女ー」「パイレーツ・オブ・カリビアン／デッドマンズ・チェスト」をはじめ、魅力あるライン・アップを編成しております。演劇部門では十八代目中村勘三郎、四代目坂田藤十郎による襲名披露公演の全国巡業や、お客様に喜んでいただける魅力ある企画と配役による演目および幅広い分野の作品を手掛けていきます。事業部門では、不動産の再開発事業として、新宿松竹会館を最新設備を誇るマルチプレックスシアターとテナントを含んだ複合ビルに建替えいたします。出版・商品等の事業強化にもつとめます。また、全社的に大型文化イベントや映像配信事業およびe-コマース事業といった新たな試みにも取り組んでまいります。

何卒、株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

庶務の概況

株主総会

平成17年5月26日（木）午前10時から東京都中央区築地四丁目1番1号東劇ビル内東劇において当社第139回定時株主総会を開催し、下記の事項を報告並びに決議しました。

- 報告事項**
1. 第139期（平成16年3月1日から平成17年2月28日まで）営業報告書、貸借対照表および損益計算書報告の件
本件は、上記計算書類の内容を報告しました。
 2. 第139期（平成16年3月1日から平成17年2月28日まで）連結貸借対照表および連結損益計算書並びに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記連結計算書類の内容およびその監査結果を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案** 第139期利益処分案承認の件
本件は、原案どおり承認可決されました。
（利益配当金は1株につき3円）
- 第2号議案** 定款一部変更の件
本件は、原案どおり承認可決されました。
- 第3号議案** 取締役8名選任の件
本件は、原案どおり永山武臣、安孫子 正、大沼信之、久松猛朗、清水 仁、油谷 昇、中島 厚の7氏が再選され、松本輝起氏が新たに選任され、それぞれ就任しました。
- 第4号議案** 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件
本件は、原案どおり本総会終結のときをもって任期満了により退任される取締役百瀬雅教氏に対し、在任中の労に報いるため退職慰労金を、当社の定める一定の基準に従い相当額の範囲内で贈呈することとし、その具体的金額、贈呈の時期、方法等は取締役会に一任することで承認可決されました。
- 第5号議案** 取締役および監査役の報酬額改定の件
本件は、原案どおり取締役の報酬額を「月額4,000万円以内」（従来どおり使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない）、監査役の報酬額を「月額400万円以内」にそれぞれ改定することで承認可決されました。

取締役会

平成17年3月1日から平成18年2月28日まで取締役会を開催すること29回、重要事項につき協議しました。

登記事項

平成17年

- 6月9日 第139回定時株主総会に基づく取締役変更登記(永山武臣、安孫子 正、大沼信之、久松猛朗、清水 仁(社外取締役)、油谷 昇、中島 厚、7氏の重任、松本輝起氏の新任)を完了しました。
発行する株式の総数の変更登記(2億2,000万株→3億株)を完了しました。
- 9月8日 第2回新株予約権の登記を完了しました。
新株予約権の数160個(新株予約権1個につき普通株式100,000株)
- 10月7日 名義書換代理人の商号変更登記(ユーエフジェイ信託銀行株式会社→三菱UFJ信託銀行株式会社)を完了しました。
- 11月11日 第2回新株予約権行使による新株予約権および発行済株式の総数、資本金の変更登記を完了しました。
新株予約権の数144個(普通株14,400,000株)
発行済株式総数108,584,278株
資本金23,200,595,022円(平成17年10月31日変更)
- 12月9日 第2回新株予約権行使による新株予約権および発行済株式の総数、資本金の変更登記を完了しました。
新株予約権の数113個(普通株11,300,000株)
発行済株式総数111,684,278株
資本金24,456,095,022円(平成17年11月30日変更)

平成18年

- 1月12日 第1回新株予約権行使による新株予約権の変更登記を完了しました。
新株予約権の数494個(普通株494,000株)(平成17年12月31日変更)
- 2月10日 第1回新株予約権行使による新株予約権の変更登記を完了しました。
新株予約権の数484個(普通株484,000株)(平成18年1月31日変更)
- 第2回新株予約権行使による新株予約権および発行済株式の総数、資本金の変更登記を完了しました。
新株予約権の数78個(普通株7,800,000株)
発行済株式総数115,184,278株
資本金25,877,095,022円(平成18年1月31日変更)

庶務事項

平成17年

- 3月1日 株式の名義書換を本日より3月31日まで停止しました。
- 3月8日 第42回ゴールデンアロー賞で歌舞伎俳優中村獅童が演劇賞を受賞しました。
- 3月30日 第26回松尾芸能賞で歌舞伎俳優市川段治郎が新人賞を受賞しました。

- 3月31日 歌舞伎俳優中村鴈治郎一行が韓国で松竹大歌舞伎近松座公演を行いました。(～4月11日)
- 4月8日 映画監督野村芳太郎が死去しました。
- 4月23日 MOVIX京都ツインビルがオープンしました。
- 4月29日 歌舞伎俳優片岡我當が旭日双光章を受章しました。
歌舞伎俳優松本幸四郎が紫綬褒章を受章しました。
- 5月5日 鹿児島松竹タカシマ1・2・3 (株松竹シネマエンタープライズ) を閉館しました。
- 5月11日 第139回定時株主総会招集通知等を発送しました。
- 5月26日 第139回定時株主総会を東劇ビル内東劇において開催しました。
第139期報告書、株主総会決議通知書を発送しました。
- 5月31日 第139期有価証券報告書を関東財務局に提出しました。
- 6月1日 MOVIX三郷 (株松竹マルチプレックスシアターズ) をオープンしました。
- 6月11日 歌舞伎俳優中村鴈治郎一行がアメリカで松竹大歌舞伎近松座公演を行いました。(～24日)
- 6月17日 高知ピカデリー1・2・3 (株松竹シネマエンタープライズ) を閉館しました。
- 6月20日 第61回日本芸術院賞で歌舞伎俳優中村福助が受賞しました。
- 7月1日 新橋演舞場がリニューアルオープンいたしました。
- 8月31日 歌舞伎俳優市村萬次郎一行がスペイン・ポルトガルで歌舞伎公演を行いました。(～9月17日)
- 9月24日 第43回ニューヨーク映画祭に合わせ、「日常の美－松竹110周年記念特集」が企画され、リンカーンセンターにおいて代表作「男はつらいよ」他全45作品が上映されました。(～10月20日)
- 11月15日 第140期中間報告書を発送しました。
- 11月19日 シネスイッチ銀座で「松竹110周年祭」を開催し、41作品を上映しました。(～12月16日)
- 11月25日 歌舞伎が世界無形文化遺産に登録されました。
- 11月26日 「松竹STAR GATE」の最終選考会が歌舞伎座にて開催されました。
(グランプリ 海老瀬花子、準グランプリ 西山風花)
(審査員特別賞 境 円香、キャラクター賞 黒田 愛)
- 11月29日 MOVIX川口 (株松竹マルチプレックスシアターズ) をオープンしました。
- 11月30日 第140期半期報告書を関東財務局に提出しました。
四代目坂田藤十郎襲名披露興行が南座で幕を開けました。
- 12月2日 第53回菊池寛賞で演出家蜷川幸雄が「NINAGAWA十二夜」(歌舞伎座7月公演) で受賞しました。

- 12月19日 第30回報知映画賞で歌舞伎俳優市川染五郎（「阿修羅城の瞳」）が主演男優賞を受賞しました。
- 12月26日 歌舞伎俳優尾上松助、新生松竹新喜劇俳優白羽大介がそれぞれ死去しました。
- 12月28日 第18回日刊スポーツ映画大賞で「ミリオンダラー・ベイビー」が外国作品賞、歌舞伎俳優市川染五郎（「阿修羅城の瞳」）が主演男優賞を受賞しました。

平成18年

- 1月13日 東京国立近代美術館フィルムセンターで「松竹創業百十周年記念 松竹と映画」「同 松竹映画探索1960-70年代」がそれぞれ開催されました。（～3月26日）
第60回芸術祭賞で新生松竹新喜劇錦秋公演「お祭り提灯」が優秀賞を受賞しました。
- 1月23日 第24回京都市文化賞で歌舞伎俳優坂田藤十郎が受賞しました。
- 1月31日 第5回朝日舞台芸術賞で歌舞伎俳優尾上菊之助（「NINAGAWA十二夜・歌舞伎座7月公演」）が寺山修司賞を受賞しました。
- 2月3日 柏松竹1・2・3（榎松竹シネマエンタープライズ）を閉館しました。
- 2月6日 第34回大谷竹次郎賞で今井豊茂（「NINAGAWA十二夜」歌舞伎座7月）が受賞しました。
- 2月7日 第48回ブルーリボン賞で「ミリオンダラー・ベイビー」が外国作品賞、真田広之（「亡国のイージス」）が主演男優賞、薬師丸ひろ子（「オペレッタ狸御殿」）が助演女優賞、多部美華子（「HINOKIO」）が新人賞をそれぞれ受賞しました。
- 2月8日 第60回毎日映画コンクールで「オペレッタ狸御殿」が日本映画優秀賞を受賞しました。
- 2月10日 熊本松竹1・2（榎松竹シネマエンタープライズ）を閉館しました。
- 2月28日 第13回読売演劇大賞で演出家蜷川幸雄が「NINAGAWA十二夜」（歌舞伎座7月公演）で大賞・最優秀演出家賞を受賞しました。
長野松竹相生座・ロキシー1・2（榎松竹シネマエンタープライズ）を閉館しました。
株式会社松竹シネマエンタープライズを解散しました。

株 式 事 項

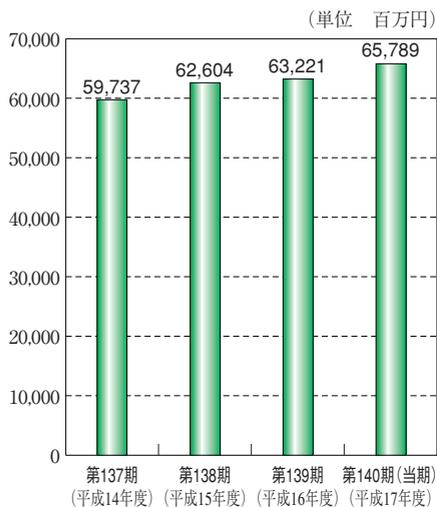
本期間中における株式名義書換数は2,086件で、この株式数は16,856,988株であります。

本期末現在株主数は18,366名で、前期末に比較し2,257名減少しました。

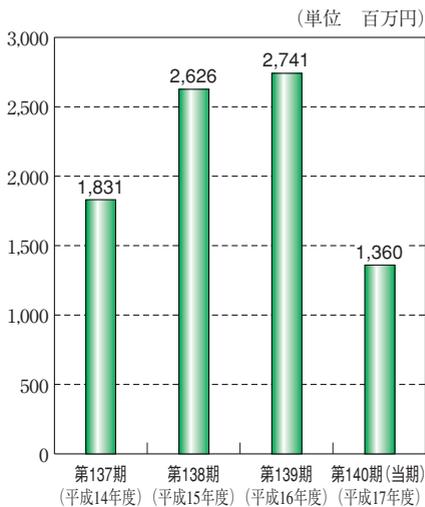
発行済株式総数は115,984,278株で、前期末に比較し、9,000,000株増加しました。

[業績の推移]

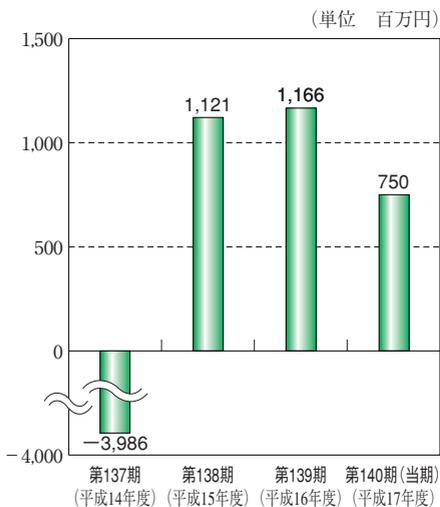
売上高



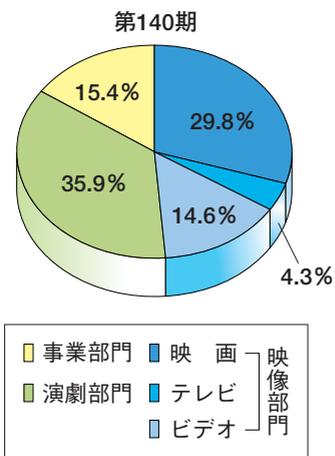
経常利益



当期純利益



部門別売上



貸借対照表

(平成18年2月28日現在)

(単位 千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
流動資産	26,918,782	流動負債	22,957,131
現金及び預金	5,038,043	買掛金	3,639,022
受取手形	740	短期借入金	10,485,810
売掛金	6,592,297	社債(1年以内償還)	400,000
商製品	3,547,447	未払金	4,246,229
製成品	114,647	未払費用	360,161
原材料	26,208	未払事業所税	45,885
仕掛品	1,145,533	未払法人税等	643,103
貯蔵品	677,867	未払消費税等	285,500
前払費用	3,015,918	前受金	1,845,519
繰延税金資産	228,234	預り金	637,911
短期貸付金	948,300	賞与引当金	327,821
貸倒引当金	4,320,440	新株予約権	25,690
その他の流動資産	253,063	その他の流動負債	14,475
1,033,407	△23,368	固定負債	36,974,305
固定資産	87,399,426	社債	3,200,000
有形固定資産	43,249,856	長期借入金	23,595,000
建設物	19,340,185	繰延税金負債	2,444,704
構築物	6,865,352	退職給付引当金	1,554,960
機械及び装置	110,779	役員退職慰労引当金	683,562
車両運搬具	686,034	受入保証金	5,496,078
工具・器具・備品	13,625	負債合計	59,931,437
土地	1,038,261	資本の部	
建設仮勘定	15,158,775	資本金	26,201,895
36,842		資本剰余金	18,921,591
無形固定資産	1,478,579	資本準備金	16,907,547
借地権	974,866	その他資本剰余金	2,014,044
商標権	4,955	資本金及び資本準備金減少差益	2,011,583
ソフトウェア	498,757	自己株式処分差益	2,461
投資その他の資産	42,670,990	利益剰余金	3,719,443
投資有価証券	18,656,996	任意積立金	973,015
関係会社株式	8,415,536	固定資産圧縮積立金	973,015
出資金	9,312,288	当期末処分利益	2,746,427
長期貸付金	1,994,500	株式等評価差額金	5,989,291
差入保証金	5,210,433	自己株式	△418,279
その他の投資	865,542	資本合計	54,413,943
貸倒引当金	△1,784,306	負債・資本合計	114,345,380
繰延資産	27,171		
新株発行費	27,171		
資産合計	114,345,380		

(注) 1. 関係会社に対する短期金銭債権 4,026,349千円 長期金銭債権 3,093,969千円
 2. 関係会社に対する短期金銭債務 605,216千円 長期金銭債務 72,291千円
 3. 有形固定資産の減価償却累計額 27,577,126千円
 4. リース資産

貸借対照表に計上した固定資産のほか、リース契約により使用している重要な固定資産として電子計算機及び
 劇場調査設備等があります。なお、当期の支払リース料は268,706千円であります。

5. 建物 14,937,409千円 土地 2,855,236千円 投資有価証券 10,330,747千円 関係会社株式 154,501千円

上記のほか、子会社の銀行借入金を担保するため、建物 466,778千円 土地 2,682,401千円

投資有価証券 425,530千円 関係会社株式 15,628千円を物上保証に供しております。

6. 繰延債務残高 7,170,950千円

7. 商法施行規則第124条第3号に規定する純資産額 5,989,291千円

8. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

(自平成17年3月1日)
(至平成18年2月28日)

(単位 千円)

科 目	金 額
経常損益の部	
営業損益の部	
売上高	65,789,867
売上原価	37,032,066
販売費及び一般管理費	26,627,850
営業利益	2,129,950
営業外損益の部	
営業外収益	
受取利息及び配当金	509,996
その他の営業外収益	283,088
計	793,085
営業外費用	
支払利息	550,402
その他の営業外費用	1,011,818
計	1,562,221
経常利益	1,360,814
特別損益の部	
特別利益	
投資有価証券売却益	1,445,788
計	1,445,788
特別損失	
固定資産除却損	71,477
映像商品等償却損	372,838
たな卸資産廃棄損	336,827
関係会社整理損	208,870
関係会社株式消却損	480,650
関係会社株式評価損	21,509
関係会社貸倒引当金繰入	80,000
その他の特別損失	23,759
計	1,595,934
税引前当期純利益	1,210,668
法人税、住民税及び事業税	506,696
法人税等調整額	△46,062
当期純利益	750,033
前期繰越利益	1,996,393
当期未処分利益	2,746,427

(注)1. 関係会社との取引高

売上高	2,633,656千円
営業費用	5,951,387千円
営業取引以外の取引高	245,427千円

2. 1株当たり当期純利益 6円75銭
3. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
子会社株式及び関連会社株式
その他有価証券
移動平均法による原価法

時価のあるもの	期末日の市場価格等に基づく時価法
時価のないもの	(評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定している。)
	移動平均法による原価法
2. デリバティブの評価基準及び評価方法
時価法
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法
ビデオテープ・プログラム・キャラクター商品
商品土地・映像版權商品
その他の商品
製品
仕掛品
原材料
貯蔵品
移動平均法による原価法
個別法による原価法
先入先出法による原価法
個別法による原価法
個別法による原価法
先入先出法による原価法
先入先出法による原価法
4. 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産
定額法によっております。
なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却によっております。
主な耐用年数は以下のとおりであります。
建物10年～50年
設備3年～20年
無形固定資産
定額法によっております。
ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
5. 繰延資産の処理方法
新株発行費
商法施行規則の規定に基づき3年間で均等償却を行っております。
6. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
7. 引当金の計上基準
貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については実績繰入率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
賞与引当金
従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の賞与支給見込額のうち、当期に負担すべき額を計上しております。

退職給付引当金	<p>従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>なお、過去勤務債務はその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。</p> <p>また、数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を翌期から費用処理することとしております。</p>
役員退職慰労引当金	<p>役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末における要支給額を計上しております。</p> <p>なお、役員退職慰労引当金は商法施行規則第43条に規定する引当金であります。</p>

8. リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

9. ヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約取引については、振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を、金利スワップ取引及び金利キャップ取引については、特例処理の要件を満たしている場合には特例処理を採用しております。

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	為替予約取引 金利スワップ取引・金利キャップ取引
ヘッジ対象	外貨建予定取引及び借入金

ハ. ヘッジ方針

外貨建予定取引の為替変動リスク及び借入金の金利変動リスクを回避する目的で為替予約取引、金利スワップ取引及び金利キャップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約毎に行っております。

ニ. ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎としてヘッジの有効性を評価しております。

10. 消費税等の会計処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

法人事業税における外形標準課税部分の損益計算書上の表示方法

「地方税法等の一部を改正する法律」（平成15年法律第9号）が平成15年3月31日に公布され、平成16年4月1日以後に開始する事業年度より外形標準課税制度が導入されたことに伴い、当期から「法人事業税における外形標準課税部分の損益計算書上についての実務上の取扱い」（平成16年2月13日企業会計基準委員会実務対応報告第12号）に従い、法人事業税の付加価値制及び資本割については、販売費及び一般管理費に計上しております。この結果、販売費及び一般管理費が136,407千円増加し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益が136,407千円減少しております。

利益処分

(単位 円)

当期末処分利益の処分	
当 期 未 処 分 利 益	2,746,427,763
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金 取 崩 額	41,984,917
計	2,788,412,680
上記金額を下記のとおり処分します。	
配 当 金	346,111,842
(1 株 に つ き 3 円)	
役 員 賞 与 金	17,000,000
(うち 監 査 役 賞 与 金)	(2,500,000)
次 期 繰 越 利 益	2,425,300,838
その他資本剰余金の処分	
そ の 他 資 本 剰 余 金	2,014,044,459
上記金額を下記のとおり処分します。	
そ の 他 資 本 剰 余 金 次 期 繰 越 高	2,014,044,459

- (注) 1. 配当金は、自己株式613,664株分を除いて計算しております。
2. 固定資産圧縮積立金取崩額は、租税特別措置法の規定に基づくものであります。

連結貸借対照表

(平成18年2月28日現在)

(単位 千円未満切捨)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
流動資産	37,807,038	流動負債	30,632,813
現金及び預金	15,868,054	支払手形及び買掛金	7,121,682
受取手形及び売掛金	7,887,431	短期借入金	8,382,500
たな卸資産	6,876,775	一年以内返済予定長期借入金	4,216,190
前渡金	3,110,287	一年以内償還予定社債	400,000
前払費用	470,995	未払金	4,933,784
繰延税金資産	1,022,140	未払費用	485,163
立替金	138,886	未払事業所税	81,233
未収消費税等	6,954	未払法人税等	1,439,059
その他	2,455,059	未払消費税等	406,839
貸倒引当金	△29,548	賞与引当金	350,297
固定資産	95,448,162	新株予約権	25,690
有形固定資産	52,266,097	その他	2,790,373
建物及び構築物	20,144,230	固定負債	44,161,942
設備	13,652,804	社債	3,200,000
機械装置及び運搬具	853,378	長期借入金	28,655,729
工具・器具・備品	1,305,958	繰延税金負債	3,554,945
土地	15,559,598	退職給付引当金	2,307,821
建設仮勘定	688,986	役員退職慰労引当金	686,712
その他	61,140	受入保証金	5,756,733
無形固定資産	2,068,409	負債合計	74,794,756
借地権	1,080,475	少数株主持分	3,193,480
商標権	5,622	資本の部	
ソフトウェア	624,686	資本金	26,201,895
連結調整勘定	272,607	資本剰余金	18,921,591
その他	85,018	利益剰余金	5,043,158
投資その他の資産	41,113,654	株式等評価差額金	6,004,312
投資有価証券	20,492,610	自己株式	△865,439
出資	9,316,438	資本合計	55,305,518
長期貸付金	731,162	負債、少数株主持分及び資本合計	133,293,755
長期前払費用	292,200		
繰延税金資産	140,743		
差入保証金	7,455,812		
その他	2,762,355		
貸倒引当金	△77,668		
繰延資産	38,553		
新株発行費	32,186		
開発費	6,366		
資産合計	133,293,755		

連結損益計算書

(自 平成17年 3月1日
至 平成18年 2月28日)

(単位 千円未満切捨)

科 目	金 額
経常損益の部	
営業損益の部	
売上高	96,644,251
売上原価	54,272,433
販売費及び一般管理費	38,406,762
営業利益	3,965,055
営業外損益の部	
営業外収益	933,896
営業外費用	1,773,805
経常利益	3,125,145
特別損益の部	
特別利益	2,683,868
特別損失	1,074,352
税金等調整前当期純利益	4,734,662
法人税、住民税及び事業税	1,776,159
法人税等調整額	157,126
少数株主利益(控除)	211,195
当期純利益	2,590,180

連結キャッシュ・フロー計算書

(自 平成17年 3月1日
至 平成18年 2月28日)

(単位 千円未満切捨)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,116,211
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,968,858
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,674,569
現金及び現金同等物に係る換算差額	23
現金及び現金同等物の増減額	1,821,946
現金及び現金同等物の期首残高	13,652,410
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少	△3,871
現金及び現金同等物の期末残高	15,470,485

会社の概要

商号 松竹株式会社
設立 大正9年11月
資本金 26,201,895,022円
発行済株式総数 115,984,278株
株主数 18,366名
従業員数 610名

本社、支社および営業所
本社

東京都中央区築地四丁目1番1号

電話 03-5550-1533 (総務課)

関東支社(東京)

関西支社(大阪)

九州営業所(福岡)

<http://www.shochiku.co.jp>

役員

取締役会長	永山 武臣
代表取締役副会長	大谷 信義
代表取締役社長	迫本 淳一
専務取締役	大川 武夫
専務取締役	野田 助嗣
専務取締役	安孫子 正司
常務取締役	山本 雅司
常務取締役	大沼 信之
常務取締役	安川 好一
常務取締役	久松 猛朗
常務取締役	中島 厚仁
取締役相談役	清水 仁鼻
取締役	油谷 信彦
取締役	白井 雅彦
取締役	関本 輝起
常勤監査役	岡田 敏明
監査役	河村 直治
監査役	上坂 凱勇
監査役	柏木 俊彦

(平成18年2月28日現在)

株 主 メ モ

決 算 期	毎年 2 月末日
剰余金の配当受領株主確定日	毎年 2 月末日 中間配当を実施するときは 8 月末日
定 時 株 主 総 会	毎年 5 月下旬
基 準 日	毎年 2 月末日 このほか必要があるときは予め公告して基準日を定めます。
株 主 名 簿 管 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 5 号 三菱 U F J 信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 5 号 三菱 U F J 信託銀行株式会社 証券代行部
(同 連 絡 先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱 U F J 信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711
同 取 次 所	三菱 U F J 信託銀行株式会社 全国各支店 野村証券株式会社 全国本支店 ※株式関係の手続き用紙のご請求は、次の三菱 U F J 信託銀行の電話およびインターネットでも 24 時間承っております。 電話 0120-244-479 (本店証券代行部) 0120-684-479 (大阪証券代行部) インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
公 告 掲 載 新 聞	東京都において発行する日本経済新聞

株 主 優 待 基 準

【株主優待権利確定日および優待期間】

権利確定日	映画優待期間	演劇優待期間
毎年 2 月末日	毎年 6 月 1 日～同年 11 月 30 日	毎年 6 月分～同年 11 月分
毎年 8 月末日	毎年 12 月 1 日～翌年 5 月 31 日	毎年 12 月分～翌年 5 月分

※ 6 ヶ月ごとに株主様へ株主優待内容通知をご通知いたします。

【映画優待 ポイント付与基準】 ※10ポイントにつき 1 名様のご入場可能

保有株式数	6 ヶ月優待ポイント数 (1 ヶ月使用可能ポイント数)	
1,000株以上	80ポイント	(40ポイント)
2,000株以上	160ポイント	(60ポイント)
3,000株以上	200ポイント	(80ポイント)
5,000株以上	280ポイント	(100ポイント)
8,000株以上	400ポイント	(120ポイント)
10,000株以上	480ポイント	(140ポイント)

【演劇優待 枚数基準】

保有株式数	6 ヶ月優待枚数
3,000株以上	2 枚
5,000株以上	4 枚
8,000株以上	6 枚
10,000株以上	8 枚
15,000株以上	12枚
20,000株以上	16枚

※ 「6 ヶ月優待ポイント数」とは、優待権利期間の 6 ヶ月の間に使用できるポイント総数です。そのポイント総数の内、1 ヶ月に使用できる上限のポイント数を示しているのが、「1 ヶ月使用可能ポイント数」です。